

【(7) 板書】

⑤「学習の流れや思考の跡が分かるようにしている」

《つまづきの背景》

- 記憶力の弱さ、D 文脈を理解することの困難さ、H 刺激の選択の困難さ、
- 見通しを持つことの困難さ

《解説》

授業の始めに学習の流れを板書したり、小黒板などに書いて示したりすることで、子どもは学習の見通しが付き、一つ一つの活動に集中しやすくなります。また、教科書の挿絵、短冊などを活用して板書を分かりやすくまとめることで、授業展開が整理され、子どもが授業を振り返りやすくなります。

学級の中には、口頭での指示を聞き逃したり、聞いたことを記憶に留めておいて必要なときに思い出すことが苦手であったりするなど、教師の意図を正しく理解できていない子どもがいる場合があります。板書等を活用して視覚的な手掛かりを示すことは、これらの困難さを補うことにもつながります。

学習の流れを小黒板やカード等にあらかじめ書いておくと、授業の始めにすぐに提示できます。また、教科書の挿絵などの拡大コピーや短冊などの視覚的な手掛かりを活用することで、いつでも見て確認できるので、子どもが安心して授業に取り組めるようになります。

【工夫点】

- ・ 授業の流れを黒板に提示する。(小中高 工夫例 53)
- ・ 授業の振り返りに活用できるように板書する。(小中高 工夫例 54)

◆工夫例 53 「授業の流れを黒板に提示する」

すること

- ①教科書8～9ページを読む
- ②練習問題をノートに写す
- ③練習問題を解く
- ④ドリルの7ページをする
- ⑤ドリルを先生に見せる

《小学校》

活動の見通しが立たないと、誰でも不安になります。授業の流れが分かることで安心感を持ち、落ち着いて学習に取り組むことができます。

◆工夫例 54 「授業の振り返りに活用できるように板書する」



《国語「さけが大きくなるまで」(小学校2年生)》

授業ではいろいろな語句が出てきます。表現や理解のポイントになる語句をカードにして、子どもが注目できるようにしておくと、授業を振り返るときの手助けになります。